



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2022年12月14日発行 第56号

師走を迎え、慌ただしい雰囲気になるのは気持ちの持ち方かもしれません。12月は1年の締めくくりにもかかわらず、それにふさわしい過ごし方が出来ていたかが問われそうです。

さて、世界ではサッカーワールドカップの様子が連日報道されていますが、日本の活躍の場面が目立っていました。ベスト16で終えたチームが何故話題になるのか、振り返ってみますと「フェア精神があられ爽やか」「最後まで決して諦めない」「来た時より美しく」など、自分が感じたことです。

◎ 「交響神樂の原風景を訪ねて」

交響神樂プロジェクトの一環として、標記見出しのタイトルでセミナーを開催しました。内容は、第1部が「連作交響神樂」の作曲家、“平野一郎”氏による「交響曲」と「神樂」が結びついた経緯についての説明がありました。第一番の〈國引〉公演の音源を交えながら振り返ると共に、全9部作の壮大な構想についてのお話があり、作曲家自身の想いがよく伝わった講演となりました。

第2部は、ゲストとして地元の考古学者である“平野芳英”氏をお迎えし、作曲家平野氏と「出雲神話」の物語を踏まえた事象について、様々な方向性から語り合ってくださいました。考古学者の平野氏は、風土記に記された現場をくまなく訪ね、「歩く考古学者」と言われており、古代の記述から現代の姿を重ね合わせることが出来るよう、現地の写真などを駆使し、私たちに分かりやすく説明していただきました。また、作曲家平野氏との神話に対する熱意のトークにより、交響曲に結びつく音霊（オトダマ）としての意味が少しずつ理解できたように思いました。

第3部は、作曲家平野氏と実際に演奏を担当する出雲フィルハーモニー交響楽団の指揮者、“中井章徳”氏が、第一番〈國引〉以来これまで世界初演をしてきた足取りをふり返り、演奏を視点としたお話を聞くことが出来ました。エピソードの中には、楽譜を読み取るのがすごく難解であるにもかかわらず、実際に演奏されるとしなやかで華麗な音源が表現され、神話の世界観が肌で感じられるマジックのような錯覚に陥るというお話がありました。また、作曲家が評価をされるには、数十年・数百年というスパンがかかり、過去の大作曲家を例に、素晴らしい曲は年月を超えて残っていく事実を説明されていました。そういうことから、「連作交響神樂」も新感覚の交響曲として、今後の評価も上がっていく



大作の一つと言えることを力説されているところが印象的でした。

来年10月の「神在月」によいよグランドフィナーレを迎える第六番〈國譲〉がますます楽しみとなるセミナーになりました。

◎ iPhil ウィンドアンサンブルが初公演！

大社町音楽協会の依頼により、出雲フィルハーモニー・チェンバーオーケストラが管打楽器によるウィンドアンサンブルを編成し、先日初の公演を大社文化プレイスうらら館で開催しました。チェンバーオーケストラは、弦楽器と管打楽器による1管編成が基本のスタイルですが、今回は主催者の希望により管打楽器による1管編成で臨みました。また、本チェンバーオーケストラ編成に普段はありませんが、サクソフォンを迎え入れました。これも初の試みです。この編成は特殊ですので楽譜の購入や編曲依頼から始まりました。楽譜は、フレキシブル（柔軟な）レパートリーで書かれていて、いろいろな組み合わせで演奏できるようになっています。この組み合わせが難題でしたが、各楽器によるパートを入れ替えるだけで響きや全体のまとまりが全然違ってきますが、指揮者中井氏の的確な判断により、短時間でiPhilサウンドの完成度が高まっていきました。

プログラムは、本格的なクラシック音楽から、ジャズ、映画音楽、アニメソングと幅広い客層に楽しんでいただけるよう選曲されていました。ご当地の大社中学校校歌も本ウィンドアンサンブル用に編曲していただき、懐かしく口ずさまれる方も多かったこととされます。

今回の公演では、サクソフォン奏者として私も参加しました。引き受けるには大きな壁があり戸惑いましたが、人生最後のチャレンジと心得、オーケストラスタイルのアンサンブルを体験させていただきました。皆さんのアンサンブルに対する集中力や合わせる感覚は、アーチストとしての誇りと輝きがそこにあり、そのことは、出雲芸術アカデミー音楽院の指導者である以前の姿であり、それに気づいたことは、一緒に参加させていただいた私にとって一番の収穫となりました。そして、終演後の達成感と皆さんの笑顔がとても印象的でした。

出雲フィルハーモニー・チェンバーオーケストラに所属する皆さんは、芸術家であり演奏家であることの誇りを見失うことなく今後も大いに活躍を期待するところです。



最後は笑顔で
お別れ！

このようなスタイル
で演奏しました。



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】